

A I・半導体※ 戦略産業クラスター計画（東北地域）の概要

※フィジカル・インテリジェント・システムの中核を担う半導体製品

資料

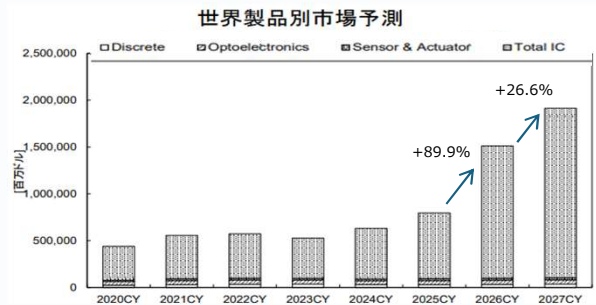
現状と課題

東北地域のポテンシャル（強み）

- 半導体関連のグローバルトップ企業や先端研究機関が集積し、**製造品出荷額が全国の約2割（約1.5兆円）**。
- その中で岩手県では、半導体および半導体製造装置の分野で、国内最大手となるキオクシア岩手(株)や、東京エレクトロテクノロジーソリューションズ(株)が立地し、その**関連サプライチェーン企業も100社以上が集積**しており産業集積の素地がある。

●現状（その地域・産業を取り巻く将来の見通し）

- WSTSの予測では、2027年の世界半導体市場は高成長継続が予測されており、**キオクシアで生産するNAND型メモリなどの半導体需要は引き続き高まっている**。
- キオクシア岩手では、**新たな投資により大容量・高性能なメモリを製造し、他社との差別化を行うことで、国際競争力の優位性が見込まれる**。



出典：一般社団法人WSTS日本協議会

●課題

投資資金・人材不足

- 半導体関連企業が国際競争力を維持・確保し続けるためには、継続的かつ大規模な民間投資を支える事業環境の整備が課題。
- フィジカルAIに関する専門人材の育成が急務。2040年までに**約4,800人程度の不足**が見込まれている。

インフラ・制度

- 工業用水供給設備の増強（約40,000m³/日）**、周辺道路の渋滞対策、**製品輸送効率向上に向けた道路整備**。

進行中の大規模投資案件と取組

●核となる大規模投資案件【道筋】

【キオクシア岩手（岩手県北上市）】

- 2019年・2022年で**計約2兆円を工場に投資（3次元NAND型フラッシュメモリ生産施設の整備）**。今後、さらなる投資について宣言しており、さらなる投資継続が期待できる。

※ 特定半導体生産施設整備等計画（経産省）に採択



出所：キオクシア岩手(株)HP

●課題解決に向けた取組【政策手段】

投資資金

- 次世代NAND型フラッシュメモリの生産施設整備支援（国の特定半導体基金）。
- 半導体関連企業の新たな設備投資に関する国の予算支援。

人材育成

- 新たに整備するフィジカルAI関連の人材育成施設での研修。
- 岩手大学の半導体人材育成プログラム**、**黒沢尻工業高校の半導体関連学科**による半導体関連産業人材の育成など。

インフラ・制度（工業用水事例）

- キオクシア岩手(株)が立地する北上工業団地の工業用水需要増加に伴い、工業用水を安定供給するために増設工事を実施。

●インフラ整備の例

事業：新北上浄水場
第2期建設工事
計画水量：約40,000m³/日
場所：北上市
整備期間：2023～2026年度



出典：岩手県HP

目指す姿【目標】

大容量・高性能なNAND型フラッシュメモリ製造による国際競争力ある産業集積を目指す。

官民設備投資額

【KGI】**約1兆2,700億円**（2040年まで）
【KPI】

- 半導体関連投資：約1兆2,000億円（2026年～2040年）
- 県・市町村による人材育成施設等に関する投資：700億円以上（2026年～2040年）
- 2030年時点での累積額：約1兆円
- 2030年時点での累積投資件数：2件

付加価値増加額

【KGI】**約5兆6,600億円**（2040年まで）
【KPI】

- 2030年時点での累積額：1兆8,800億円

人材育成数

【KGI】**+4,780人**（2040年まで）
【KPI】

- 岩手県：新たに整備するフィジカルAI関連の人材育成施設での研修 600人（2030年時点での累積）
- 岩手大学等の教育機関：半導体人材育成プログラムなどによる育成 280人（2030年時点での累積）

